


2023年2月1日

学位論文審査並びに最終試験結果報告書

大学院歯学研究科長 殿

主査 荒川 俊哉 

副査 村田 勝 

副査 佐藤 惇 

今般 藤井彩貴さんにかかわる学位論文審査並びに最終試験を行い下記の結果を得たので報告する。

記

- 1 学位論文題目：Gli1陽性歯根膜細胞は抜歯窩治癒に関与する
- 2 論文要旨 別添
- 3 学位論文審査の要旨 別添（様式第12号）
- 4 最終試験の要旨 別添（様式第13号）

以上の結果、藤井彩貴さんは博士（歯学）の学位を授与する資格のものと判定する。

学位論文審査の要旨（2行目）

主査 荒川 俊哉

印

副査 村田 勝

印

副査 佐藤 惇

印

氏 名（8行目）藤井 彩貴

学位論文題目（10行目から）Gli1陽性歯根膜細胞は抜歯窩治癒に関与する

以下本文（15行目から1000字以内）

本論文は、抜歯窩の治癒に関与する骨原性細胞のルーツを探索した研究であり、抜歯窩の骨再生において、歯根膜幹細胞が骨芽細胞に分化して骨再生に関与している事を明らかにした研究である。本研究では、歯根膜マーカーであるGli1遺伝子に注目し、タモキシフェン投与によりTomato蛍光を発するGli1-Cre^{ERT2};tdTomato (iGli1/Tomato) マウスを用い、抜歯窩治癒過程におけるGli1陽性細胞の動態を組織学的に検討した。その結果、歯根膜に存在するGli1陽性細胞は抜歯後に増殖し、抜歯窩における新生骨形成に寄与することを明らかにした。また、Gli1陽性歯根膜細胞の骨芽細胞への分化は、Gli1陽性細胞が分泌するBMP4がオートクライン的に作用し促進している事を明らかにした。これらの知見は、新たな抜歯窩の骨再生治療に繋がる重要な報告であると言える。研究内容および結果に問題は無く、考察も的確に論じられており、学問的価値は高いと思われる。従って、本論文は、学位論文として相応しいと判断された。

最終試験（学力の確認）の要旨（2行目）

主査 荒川 俊哉



副査 村田 勝



副査 佐藤 惇



氏 名（8行目）藤井 彩貴

以下本文（10行目から200字以内）

学位審査に際し、論文内容、およびその背景や関連研究に関して、主査及び副査からの質問に的確に回答し、説明がなされた。従って、博士としての学力が十分に備わっていると判断し、最終試験に合格したものと認定された。